

# 学生の余暇活動の一考察

日比野 朔 郎

Studies of Student's Leisure Activities.

SAKURO. HIBINO

日本においても余暇論 (Leisure) は盛んになった。これからの余暇論は学生の余暇意識によって変革されるであらう。ここに学生の余暇に対する意識を検討して、未来の余暇の考察を考えた。その結果は一般市民との学生との間に差異を見出すことができた。平日と休日との余暇活動の実態、余暇活動の阻害要因として、これからの余暇に対する期待 (意識) について考察した。

## I はじめに

日本の経済成長について、余暇 (Leisure) 論 (レジャー論) は盛んになって、余暇の社会学が日本においても高い位置を占めるようになってきた。

レクリエーション (Recreation) 理論も大衆化とともに大きな社会問題となってきた。そして、レジャー論も時間量から質的活動内容また社会意識へと脱皮が必要となってきたと思われる。

米国は日本より早くから社会問題となっていたが、ともにレクリエーション理論から発展してきたと考えられる。また、レジャー論は洋の東西を問わずまた大衆化しつつある。

われわれ体育関係者にとっては、このレジャーの問題に関心を寄せざるをえない。さらには、レジャーに関係する関連研究者とともに探究を進めるべきであらう。

このような観点から、学生を対象に調査をもとに現代社会における余暇活動を考察した。とくに学生の特性を見出すために、一般市民の調査結果と比較することを試みた。

余暇活動とレジャーとは意味がややことなると思われるが、ここでは同義的に考えている。言葉の意義や内容は社会や時代とともに変わってゆくが、行動の本質を探ることが大切であると思う。とくにレクリエーション理論からレジャー論に発展してきたことは、レクリエーションとレジャーとのニュアンスを異にする。

レクリエーションは自由な時間に自発的、また自己

目的的活動で満足・楽しさを感じることができる活動である。このレクリエーションの本質からみるとスポーツの本質さらに遊びという概念とも類似しているが、興味で撰択する文化内容をスポーツと、楽しむ機能を健全な活動という価値的立場から撰択されるものをレクリエーションといわれている。

レクリエーションはしだいにレジャーという言葉に追われてきている。レクリエーションのもつ行うものの態度と効果の薄らいた、新しいイメージをレジャーに含ませているようである。レジャーは元来、「労働と睡眠以外の文化娯楽、レクリエーション活動に利用される時間」<sup>1)</sup>といわれるように時間の概念から自由時間を利用して行なわれる活動として用いられている。

学生のレジャーは「講義や睡眠の目的以外の自由時間に行なわれる諸活動」と時間と活動の要素をもつ概念として扱うことにした。

レジャーに Leisure Values を入れて論ずる学者がある<sup>2)</sup>。自由時間に行なわれるすべての活動をレジャーとするか人間生活に有用な自由時間内の活動のみをレジャーと見なすかということであるが、今日での意義ではレクリエーションに価値を含めて考える。本研究はレジャーの本質を論ずることが目的ではないので価値の問題を入れないでレジャーの全体像を探究することとする。

日本におけるレジャー・レクリエーションの研究は広い領域において数多くの研究がなされているが、体育スポーツ関係研究者による研究は数少く、これから研究が進められる必要があると思われる。とくに学生のこの問題の研究は別に掲げるとおり日本体育学会と

レクリエーション学会との発表に見られる。註1

体育学研究に17篇、レクリエーション研究に6篇この多くはアンケート式の実態を調べたもので意識調査も見つけられるが実践との関連の研究は少い。

## II 研究の目的・方法

### 1 研究目的

本研究の目的は、学生の余暇活動および余暇意識についての研究の手がかりとして活動内容という側面から学生の余暇活動や余暇意識を把握して検討する。とくに学生の特色を見出すために市民調査と比較する。

### 2 調査方法

研究目的を達成するためにつぎのような調査を実施した。

イ. 時期 昭和47年9月。

ロ. 対象 K大学, F大学の1・2回生。

男子251名, 女子328名, 計579名

運動部所属者男子91名 女子84名 無所属男子160名, 女子244名。

ハ. 方法

20問設問の調査票に記入してもらう方法をとった。

市民の調査は20才～69才男・女の東京都23区居住都民に質問紙による個別面接法がとられた国民生活研究所発表の資料にもった。<sup>3)</sup>

調査票の設問は、市民と比較することを考え国民生活研究所実施の調査設問を参考として20問とした。註2

## III 調査結果と考察

### 1. レジャーの実態

設問2・3多肢撰択法によって余暇生活の内容を知

るために、平日の自由時間を定期的な休日とについて、それぞれどのように過ごすことが多いかを問い、自由回答を求めた。

#### イ. 平日のレジャー実態

平日のレジャー活動についての単純集計の結果は第1表の通りである。設問26項目の中回答の多い13項目について表示した。

学生男子は読書、交際、クラブ活動と多い。女子は読書、クラブ活動、テレビ、そして交際の順に、全体としては、全対象者中の12.3%が読書をあげており、クラブ活動、交際、テレビ、音楽鑑賞、新聞雑誌、ごろ寝などがこれに続いている。

市民では、全対象者中の28.7%がテレビをあげており、読書、新聞雑誌、ごろ寝、買物、雑談、絵画手芸などがこれに続いている。

#### ロ. 休日のレジャー実態

休日のレジャー活動についての結果は第2表の通りである。学生男子は読書、交際、ごろ寝と多く、女子は買物、交際、読書が多いが全体としては、対象者中の10.0%が読書をあげているが、交際、買物、テレビをみる、音楽鑑賞、映画観劇そしてごろ寝と続いている。

市民では全対象者中の15.1%がテレビをみるをあげているが、買物、ごろ寝、雑談、映画観劇、読書、新聞雑誌をよむことがこれに続いている。

#### ハ. 平日と休日のレジャー

大学生の平日と休日とでは、読書が第1位に多いが、休日は2.3%も少くなっている。クラブ活動が休日は少く買物が8.7%と多く、交際、テレビ、音楽鑑賞、ごろ寝は休日といえども平日と同じであるが、新聞雑誌をよむことが映画観劇に変わっている。

市民では、休日には映画観劇が4.5%も多くなって

第1表 平日の余暇実態

対象	項目 N	項目														
		ごろ寝	読書	新聞雑誌	テレビ	音楽	絵画手芸	散歩	雑談	交際	買物	クラブ	訪問	観劇映画	その他(13)	
大 学 生	大 男	1323	81	155	70	108	86	14	68	32	129	16	126	40	41	357
	%	6.1	11.7	5.3	8.2	6.5	1.1	5.1	2.4	9.8	1.2	9.5	3.0	3.1	27.0	
大 学 生	大 女	1788	87	229	134	183	122	120	75	130	170	126	189	28	51	144
	%	4.9	12.8	7.5	10.2	6.8	6.7	4.2	7.3	9.5	7.0	10.6	1.6	2.9	8.0	
大 学 生	大 計	3111	168	384	204	291	208	134	143	162	299	142	315	68	92	501
%		5.4	12.3	6.6	9.4	6.7	4.3	4.6	5.2	9.6	4.6	10.1	2.2	3.0	16.0	
市 民		2257	178	223	213	647	43	125	22	167	62	177	12	16	27	346
%		7.9	9.9	9.4	28.7	1.9	5.5	1.0	7.4	2.7	7.8	0.5	0.7	1.2	15.4	

第2表 休日 の 余 暇 実 態

対象	項目		ごろ寝	読書	新聞雑誌	テレビ	音楽	絵画手芸	散歩	雑談	交際	買物	クラブ	訪問	観劇映画	その他(13)
	N															
大 男 学 生	907	64	97	30	59	56	9	46	16	72	19	40	47	40	312	
	%	7.1	10.7	3.3	6.5	6.1	1.0	5.1	1.8	7.9	2.1	4.4	5.2	4.4	34.4	
大 女 学 生	1529	72	147	64	117	99	105	69	73	157	194	41	77	100	214	
	%	4.7	9.6	4.2	9.7	6.5	6.9	4.5	4.8	10.3	12.7	2.7	5.0	6.5	13.9	
大 学 生 計	2436	136	244	94	176	155	114	115	89	229	213	81	124	140	526	
	%	5.6	10.0	3.9	7.2	6.4	4.7	4.7	3.7	9.4	8.7	3.3	5.1	5.7	21.6	
市 民	2282	250	107	89	344	30	43	78	187	87	273	10	74	131	579	
	%	11.0	4.7	3.9	15.1	1.3	1.9	3.4	8.2	3.8	12.0	0.4	3.2	5.7	25.4	

手芸絵画が休日には少くなっているほかは、休日と平日とは活動内容の順位に差がない。テレビをみることは休日は13.6%も少くなっている。大学生と市民との生活構造の違いまた休日と平日とのライフサイクルの相違を考えねばならない。また、時間量の側面から追究と合せ考察する必要もあろう。

ニ. 運動部所属者と無所属者

平日余暇活動の運動部所属者と無所属者の差

男  $x^2=15.10$   $df=6$   $0.02 > p > 0.01$

女  $x^2=19.74$   $df=6$   $0.01 > p$

休日余暇活動の運動部所属者と無所属者の差

男  $x^2=4.85$   $df=6$   $0.70 > p > 0.50$

女  $x^2=1.84$   $df=6$   $0.95 > p > 0.90$

大学生の運動部所属者と無所属者との間に平日のレ

ジャー活動内容項目の答え方に差がない。活動内容として、クラブ活動のウエイトは大きくないが、実際クラブ活動の時間量は所属者にはレジャー活動に大きな影響をしていると考えられるが、時間量的な研究をまたねばわからない。

休日において運動部所属者と無所属者とは同じ傾向の答え方をしていることでレジャー活動に運動部所属が影響していない。

2. レジャー活動の阻害要因

イ. 阻害要因

設問6；レジャー活動を行なうに不満の原因を多肢撰択で9項目から撰択した結果は第3表の通りである。

4と8項目と合せ過し方がわからぬとして表示した。

第3表 阻 害 要 因

阻害なし	項目		施設の不足	交通混雑	仲間がい	過し方わ	ゆとりが	時間の不	費用がな
	対象	N			ない	からぬ	ない	足	い
19 7.5	大 男	313	44	43	14	35	32	50	95
		%	14.1	13.7	4.5	11.2	10.2	16.0	30.3
12 3.7	学 女	428	48	77	22	72	38	83	88
		%	11.2	18.0	5.1	16.8	8.9	19.4	20.6
34 5.4	生 計	796	92	120	36	107	70	133	183
		%	12.4	16.2	4.9	14.4	9.4	18.0	24.7
116 10.6	市 計	150	177	241	54	54	161	452	362
		%	11.8	16.1	3.6	3.6	10.7	30.1	24.1
82 14.3	女	705	72	101	36	16	81	228	171
		%	10.2	14.3	5.1	2.3	11.5	23.3	24.3
34 6.5	民 男	796	105	140	18	38	80	224	191
		%	13.2	17.6	2.3	4.8	10.0	28.1	24.0

大学生男女ともに「費用がない」を第1位にあげて、「時間の不足」をつぎにあげている。同様に市民は第1位に男女とも「時間の不足」を、つづいて「費用がない」をあげている。大学生と順位が変わっているが、第3位には、大学生・市民ともに「余暇を楽しむための交通機関や場所の混雑」をあげている。

この時間と費用が思うように一致しないところに人間として、悩みがありいつも続くようである。とくに市民の時間不足のウェイトは大きい。

阻害要因の大学生と市民との差

$$x^2=96.41 \quad df=6 \quad 0.01 > p$$

阻害要因の市民男子と女子の差

$$x^2=13.51 \quad df=6 \quad 0.05 > p > 0.02$$

阻害要因の大学生の男子と女子との差

$$x^2=5.05 \quad df=6 \quad 0.70 > p > 0.50$$

レジャーを行なう上で大学生と市民との間に不満の要因のウェイトに差があるが、市民・大学生ともに不満に対する男・女の性差はない。

阻害要因の大学生運動部所属と無所属の差

男子  $x^2=21.11 \quad df=6 \quad 0.01 > p$

女子  $x^2=12.35 \quad df=6 \quad 0.10 > p > 0.05$

大学生運動部に所属していることによって男子は不満の要因の答え方に差があるが女子には差がない。

ロ. 真の頻数の信頼限界

回答のし方に差異があるか、また全体の回答の比率で検討していたが、本当に差があるのか、全体に対する比率は等しくないということによって本当に多いということにはならない。そこで真の頻数の信頼限界を求めた。その結果は第4表の通りである。

大学生と市民の間では類似の傾向を示しているが市民ほど明らかに類別が大学生において出来なかった。しかし1群に「仲間がない」と「過し方がわからぬ」。

第4表 阻害要因 真の頻数の信頼限界

項目	対象	
	大 学 生	市 民
施設の不足	$75.9 \leq \phi_2 \leq 108.1$	$154.7 \leq \phi_2 \leq 199.3$
交通混雑	$101.7 \leq \phi_2 \leq 138.3$	$215.0 \leq \phi_2 \leq 267.0$
仲間がない	$26.0 \leq \phi_2 \leq 36.0$	$41.7 \leq \phi_2 \leq 66.3$
過し方がわからない	$89.7 \leq \phi_2 \leq 124.3$	$41.7 \leq \phi_2 \leq 66.3$
ゆとりがない	$56.0 \leq \phi_2 \leq 84.0$	$139.8 \leq \phi_2 \leq 182.2$
時間がない	$113.7 \leq \phi_2 \leq 152.3$	$416.4 \leq \phi_2 \leq 487.6$
費用がない	$160.4 \leq \phi_2 \leq 205.6$	$330.2 \leq \phi_2 \leq 393.8$

第2群に「施設の不足」「交通混雑」そして「ゆとりがない」第3群に「時間がない」第4群に「費用がない」に類別できた。第1群は方法の問題、第2群は施設の不足、第3群は時間不足、第4群は費用の不足と考えることができる。レジャー時間増大、所得上昇といわれるが実質的にどうなのか、またレジャー教育、さらにレジャー政策において方法、施設、時間、費用不足は重要な考えねばならぬポイントであろう。

3. 余暇意識

設問20；レジャーに期待するものを17項目から順位に第3位まで撰択させた。その結果は第5表の通りである。17撰択肢をまとめ類別した。

1, 2, 3項目を「日常生活からの脱出」10, 11, 12項目を「人間関係の調整」13, 14項目に「自由」残りの4, 5, 6, 7, 8, 9と15, 16項目を「向上と体力回復」とに4群にわけて考察した。

大学生は全対象者中の30.7%が「向上体力回復」を、また市民も50.6%がともに第1位にあげている。続い

第5表 余 暇 意 識

対象	項目 N	項目					
		無記不明	日常生活からの脱出	人間関係の調整	自 由	向上・体力回復	
大 学 生	男	753 %	82 10.9	194 25.8	124 16.6	100 13.1	253 33.6
	女	984 %	76 7.9	246 25.0	235 23.9	146 14.8	281 28.6
	計	1937 %	158 9.1	440 25.3	359 20.7	246 14.2	534 30.7
市 民	3294 %	56 1.7	692 21.0	519 15.7	361 11.0	1666 50.6	

第6表 余暇意識 真の頻数と信頼限界

項目	対象	
	大学生	市民
日常生活の脱出	$17.7 \leq \phi_2 \leq 38.3$	$12.1 \leq \phi_2 \leq 29.9$
人間関係調整	$6.7 \leq \phi_2 \leq 21.3$	$8.2 \leq \phi_2 \leq 23.8$
自由	$8.2 \leq \phi_2 \leq 23.8$	$4.6 \leq \phi_2 \leq 17.5$
向上・体力回復	$29.4 \leq \phi_2 \leq 54.6$	$38.0 \leq \phi_2 \leq 66.0$

項目	対象	
	大学生 男	大学生 女
日常生活の脱出	$18.5 \leq \phi_2 \leq 39.5$	$16.9 \leq \phi_2 \leq 37.1$
人間関係調整	$9.0 \leq \phi_2 \leq 25.0$	$5.3 \leq \phi_2 \leq 18.7$
自由	$8.2 \leq \phi_2 \leq 23.8$	$8.2 \leq \phi_2 \leq 23.8$
向上・体力回復	$26.0 \leq \phi_2 \leq 50.0$	$32.0 \leq \phi_2 \leq 58.0$

て「日常生活からの脱出」「人間関係の調整」そして「自由」と大学生・市民ともに同じ順位である。またその比率も差がない。

大学生と市民との回答のし方に差があり、大学生の男女また運動部所属者と無所属との間にも差があることがわかった。

ロ. 真の頻数の信頼限界

レジャーに対する期待の回答で頻数が本当に多いかの真の頻数の信頼限界を理したその結果は第6表の通りである。大学生の男・女また大学生と市民ともに類似しており、項目の群別が妥当であったと思われる。あえて、例えば「人間関係調整」と「自由」とは同群として「日常生活の脱出」「向上体力回復」の三方向でこれからのレジャーは志向されてゆくであろう。

期待される三方向に対して阻害要因との関係を求めてゆけばこれからのレジャーをよりよい方向に向わせるための方策にヒントをあたえる結果もえられるであろう。

また項目間の関連をクramer関連係数を求めることによって、全体構造の関連を見定めた上での検討も必要となってくる。

IV おわりに

本研究は単純集計の一部考察であるので総括をさけ、全調査の単純集計およびクロス集計の上で深い考察をする。

生活の時間量的調査はNHKの「国民生活時間調査」<sup>4)</sup>が代表的であるが、目的、観点あるいは調査法

が異なるので比較できないが、この研究に合せ生活時間調査を実施するまたその関係のもとにレジャーの実態を知り、研究の仮説を立てたい。

今後、社会は仕事中心からレジャー中心の考え方に意識変換をするようになろう。その時は当然レジャーの意味も内容も変質するであろうが、いまだ経験したことのない大きな社会問題となろう。その時では、レジャーに対する施策を講ずるということでは遅い。この変質を予測して、レジャー教育、レジャー政策を立ててゆかねばならないと思う。

(1974年7月27日受理)

註1.

体育学研究

西尾：大学の課外体育(4)

体育学研究 Vol. 2, No. 7 35頁 32年10月

西尾：同上(5)

同上 3, 1, 25, 33. 6.

藤原：学生の夏休中におけるレクリエーション実態

同上 5, 1, 331, 34. 11.

齊藤：生活構造とスポーツに関する分析

同上 5, 1, 327, 34. 11.

西尾：大学の課外体育(6)

同上 6, 1, 86, 35. 11.

団：わが国の娯楽レクリエーション研究の動向

同上 7, 1, 345, 36. 11.

阿部：大学生の体育に関する意見調査、課外体育

同上 7, 1, 409, 36. 11.

西尾：大学の課外体育(7)

同上 7, 1, 413, 36. 11.

西山：日本におけるレクリエーション系譜

同上 9, 1, 328, 38. 11.

池田：レクリエーション意識に関する研究I

同上 10, 1, 126, 39. 11.

池田：同上 II

同上 10, 2, 81, 40. 8.

湊：本学学生のレクリエーション関心調査

同上 10, 2, 97, 40. 8.

菅原：米国体育・スポーツ・レクリエーションの

社会学的研究系譜

同上 12, 5, 147, 42. 11.

勝亦：身体的レクリエーション調査研究

同上 12, 5, 149, 42. 11.

小田切：アメリカ・レクリエーション思想に関する

歴史的研究

同上 13, 5, 24, 43. 9.

布施：学生生活とスポーツ活動力の社会学的研究

同上 13, 5, 35, 43. 9.

- 江口：国立音楽大学生余暇活動と性格分析  
同 上 23回大会号 94, 47. 10.  
レクリエーション研究  
江橋：学卒者の余暇意識と余暇活動に関する研究 I  
レクリエーション研究 1号 127頁 46年11月  
江橋：同 上 II  
同 上 2, 29, 47. 11.  
西山：レクリエーション意識と態度について  
同 上 3, 79, 42. 8.  
林：42年ゴールデンウィーク東京区部居住者  
レジャー実態調査  
同 上 3, 115, 42. 8.  
松浦：レクリエーション意識  
同 上 4, 15, 43. 10.  
池田：社会人の余暇活動に関する研究  
同 上 5, 50, 44. 11.  
池田：大学正課体育の経験等の現在余暇活動に  
及ぼす影響の調査  
同 上 6, 7, 65, 46. 3.  
江刺：学生の余暇活動（レジャー）に関する事例研究  
九大体育学研究 4巻3号 45年8月

註2.

質問項目（調査票より抜粋）

- 問2. 平日（休日外）の自由時間はどのように過ごされることが多いでしょうか。（該当するものに○印を）  
1. ごろ寝 2. 読書 3. 週刊誌、新聞を読む 4. テレビをみる 5. 音楽鑑賞演奏 6. 手芸、絵画 7. 動物飼育  
8. 散歩 9. 喫茶店 10. 家族との雑談 11. 友人との交際 12. 買物 13. 碁、将棋、麻雀 14. パチンコ  
15. スポーツをみる 16. スポーツをする 17. クラブ活動 18. 工作・大工 19. 知人訪問 20. 映画・観劇  
21. ドライブ 22. 魚釣 23. 登山 24. 日帰り旅行  
25. 一泊以上の旅行 26. その他（平日 ）、（休日 ）
- 問3. A, 休日（日曜、連休）にはどのように過ごされることが多いですか（上に該当するものに△印を）

- 問6. 5の問題で2, 3に答えた人は不満なのはどのようなことでしょうか。  
1. 余暇を楽しむ場所や施設が足りない。 2. 余暇を楽しむ時の交通機関や場所が混雑しすぎる。 3. 一緒に楽しむ仲間がいない。 4. 自分にふさわしい余暇の過ごし方がみつからない。 5. 余暇を楽しむだけの気分的なゆとりがない。 6. 忙しくて余暇を楽しむ時間が足りない。 7. 金がじゅうぶんにない。 8. 自分なりに余暇を楽しむための知識や情報が足りない。 9. その他（ ）
- 問20. あなたがレジャーに期待されるものは、つぎのどれでしょうか。該当するものから1位に○印、2位に△印、3位に×印をつけて下さい。  
1. ふだん見聞きできないような珍しい体験 2. 単調な生活のリズムを破るようなフレッシュな体験 3. あわただしい日常生活からの逃避 4. 体力回復、増強  
5. 自分の能力を十分発揮する機会 6. 世の中のしくみを把握できるような視野を拓ける機会 7. 心を豊かにする機会 8. 文化の向上、維持に貢献する機会 9. 世の中のためにつくす機会 10. 家族だんらん 11. 友人との人間関係の円滑化 12. 日常生活で味わえない人間的交わり 13. 一人になる機会 14. 自分の時間を自由に使うことの喜び 15. ものをづくり出すことの喜び 16. 楽しみながら物質的報酬をうる機会 17. その他（ ）

#### 参考文献及び資料

- 1) 福武直他編社会学辞典 有斐閣 昭和39年.
- 2) Miller & Robinson; The Leisure Age: Wadsworth Publishing Company. Inc. (1963).
- 3) 国民生活研究所; 日本人の生活意識 至誠堂 昭和45年.
- 4) NHK 放送世論調査所; 国民生活時間調査 日本放送出版協会 昭和49年.